

3 / 27

愛称は『のぼりん』 登別市市民活動センターオープン



▲小笠原市長が、愛称を命名した高松（右）さんとガッチリ握手

3月27日(土)、市民活動センターのオープン式典(市主催)が行われ、市民活動団体や近隣町内会の代表など約70人が集まり、オープンを祝いました。

はじめに、小笠原市長が「市内に、市民や市民団体の活動の拠点となり、また、情報の発信ができる施設が誕生しました。大いに活用してわたしたちのまち『のぼりべつ』を元気で活気あふれるまちにするため、皆さんとともにまちづくりに取り組みましょう」とあいさつをしました。

その後、愛称の『のぼりん』を命名した高松恭子さんに感謝状授与が行われました。『のぼりん』の『のぼ』はのぼりべつから、また『りん』は輪の音読みの『りん』から名付けられ、高松さんは「市民の輪が市民活動センターでつながり、もっと大きな輪になって欲しい」と命名に込めた思いを話してくれました。

故郷の発展を願って

吉田健一さん(吉田兄弟)が『登別市ふるさとまちづくり応援寄附金』を寄附

3 / 29

3月29日(月)、三味線奏者・吉田兄弟の吉田健一さんが『ふるさとまちづくり応援寄附金』の寄附のため市役所を訪れました。

この寄附は登別市を応援する方から、活力あるふるさとづくりと協働のまちづくりに役立てるため、いただいているものです。

吉田さんは、教育の充実に関する事業に10万円を寄附し「いつかふるさとに寄附をと思っていました。今後も継続していきたい」と述べ、これを受け市長は「吉田さんに寄附していただいたのは、大きなPRになります」と感謝を伝えていました。

その後の懇談では吉田さんから「津軽三味線の全国大会を、登別市で開催したい」との提案もありました。



今日は地元の魚で 楽しい食卓

3 / 21~

平成22年登別海鮮直市オープン



3月21日(日)から、平成22年の『登別海鮮直市』(登別まちづくり促進期成会、いぶり中央漁業協同組合、市主催)が、JR登別駅横のアンテナショップで始まりました。

この取り組みは、登別漁港の水産物のPRや地産地消の拡大、地域の活性化を目的に行われており、今年で5年目となります。

この日の店頭には、地元で水揚げしたホッキ貝やボタンエビ、カジカ、マツカワガレイ(ブランド名 王鰈)などの新鮮な海の幸が並び、訪れた買い物客からは「今日は、お刺身で豪華な夕食だね」との声が聞かれました。

海鮮直市は10月末までの毎週日曜日、10時から行われます。